

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第177版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵

今日楽しかった?!

今まで社内向けに運用していたカグヤのインスタグラムを、目的を設定し直して再始動しました。

目的はSNSの配信・拡散機能を活かした「各園さんの素晴らしい保育実践を共有しあい、学びあえる場づくり」としました。

従来のホームページでは、発信してもホームページに訪れてくれない場合は思いは伝わっていませんでしたが、SNSは投稿すれば他の利用者の手元に情報が「配信」されることで強みです。アプリを開けば「今日みんなはどんな保育をしたのかな?」「保護者さんどんな取り組みをしているんだ?!」「子ども同士ってこういう環境の中だとこんな関わりをするのね」「移行期のこの時期に大事にするべきことはこういうことなのね」と、様々な実践と子どもの姿・声リアルタイムに分かるのが素敵どころです。

また、今回その素敵な配信記事を「リポスト」という形でカグヤからも紹介することで、まだ繋がりがあっていない



リポスはカグヤのHPから閲覧できます。是非ご覧ください!

園同士の学びの場となり、フォローしあって繋がりが深まり、広がっていくような場づくりを目指します。

現在は週に1〜2回の配信をするために、週に1回30分ほど時間を作っています。クルー間で素敵だと思える投稿を共有しあい、リポストしたい記事を選び、各園さんにお声かけをしています。

いきいきと主体的に遊んで暮らし、そして育っていく素晴らしい子どもたちの表情と、それを生み出す環境、先生や保護者の姿をこれからもリポストしていきたいと思っています。是非ご覧くださいませ。(眞田海)

セミナーのご案内

子どもたち一人ひとりの発達を捉える支援ツール「ミマモリング」を活用したオンラインセミナーが4月10日(水)にスタートしました!

セミナーは前編・後編の2部構成。前編では、「ミマモリング」の導入研修でお伝えしている概要説明や、保育に活かしていくための発達チェックの仕方をワークショップ形式で行います。前編の研修終了後は保育実践期間となり、それぞれが決めた取り組みを実践しレポートを提出して頂きます。そして後編のセミナーでセミナー参加園の中から実践発表をしていただく構成のセミナーです。

春期セミナーのテーマは、ただ構成のセミナーです。

「ミマモリング」のユーザーをつなぎ、園の保育環境や実践事例を共有しあえるオンラインセミナー

ミマモリング アドバンス

園の保育環境、子どもの今の発達課題に合っていますか?

発達課題に対応した実践シート

セミナーの詳細につきましては、同封のフライヤーをご覧ください。Zoomでの説明もしておりますので、ご興味のある方はお気軽にお申し込みください。

「新年度の子どもたちにあつた環境づくり」。入園、進級した子どもたちの発達をより深く理解し、保育環境に落とし込んでいけるようなプログラムです。新入職員の方もおられるかと思えますので、「ミマモリング」の活用目的をご理解いただくのにより機会かと思えます。また、すでにお使いの先生方にとつては、おさらいの意味も兼ねてご参加頂くことをおすすめしています。次回のお申込受付は夏期セミナーとなります。1年を通してセミナーを開催していますので、ぜひ園内研修としてご検討いただき、一緒に学びの機会を設けませんか? (奥山卓矢)

それぞれの防災

東日本大震災から13年が経ちました。

私たちは毎年3月11日に、あの日起きたことや行動したことを振り返り、そこから何を学び子どもたちはどう伝えていくかを話し合う時間を設けています。年始には能登半島地震が発生し、防災意識を再認識する中での場となりました。

震災が起こるまでは防災に対する意識がゼ口に近かったのですが、「備える」とは具体的に何をしたらいいのかを考えたり、時には実際に身近なもので防災グッズを作ってみたり、「むかしの田んぼ」でお米を作るようになったりと、自分たちなりに防災を考へ行動をしてきました。

13年の間に住む場所が変わったクルーや、家族が増えたクルーもいますし、会社としては働く場所も変わりました。その時々で避難場所も変わりますし、最善の避難方法も変わります。同じことを繰り返すのではなく、その時の状況に合わせた防災を毎年考へてきたことで、この1日を



子どもたちの未来に確かなものを。

「災害は忘れた頃にやってくる」と言いますが、防災を特別なことでなく日常として実践していきたいものです。

どう過ごすかということだけでなく、私たちの生き方や働き方にも大きく影響してきたことを感じています。

震災当時子どもだった方が大人になり、この13年間を振り返っている記事を読みました。その中で「生き延びたことを奇跡として語るだけではだめ。奇跡ではなく当たり前にしていかなければいけない」と話す場面が印象的でした。

みんなそれぞれに13年間の歩みがあると思いますが、起きたことを無駄にしないためにもそれぞれの視点から防災を考え、次の世代へ伝えていく役目があると思っと思っています。子どもたちも一緒に、最善の防災を考え続けていきたいと思います。(眞田由莉)

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

端午の節供

新年度が始まり、気付けばもうすぐ5月5日のこどもの日。この日は五節供のひとつでもある「端午の節供」で、男の子の誕生と健やかな成長を祝う日になります。

節供とはもともと中国の陰陽五行説にちなんだ時節のことで、季節の変わり目を意味します。古代の中国では5月に雨が多く降り、天候が不安定だったので悪月とされており、この5月を乗り切るために、月のはじめの午（うま）の日に厄除けや健康増進のために薬草である菖蒲やよもぎを飾ったり、菖蒲酒を作って飲んだりしていたそうです。

「端午」は、「端」という字に「始め・最初」という意味があり、月の最初の午の日のことを指し、午（うま）は、五（ご）とも読めることから、5月5日が端午の節供として奈良時代以降に定着し、日本の風習と交わり日本独自の文化や行事へと変化してい

きました。江戸時代に入ると、武家社会で現在に近いかたちの行事が行われるようになり、家に鎧兜を飾ったり、幟（のぼり）を立てたりして、男の子の無病息災と出世を願う日に変化したと言われています。

端午の節供の由来は奥深いものですが、単に「こどもの日」として過ごすのではなく、子どもたちの成長を祝い、息災や幸せを祈りながら、子どもたちと折り紙で兜や鯉のぼりなどをつくったり、柏餅やちまきなどいただいたり、菖蒲湯に入ったりと、行事を楽しみながら日本の美しい精神文化を繋いでいけたら素敵ですね。

私も毎年この時期は端午の節供をテーマに室礼をしています。今年度は春に父から長年実家に仕舞われていた五月人形（兄の）が送られてきたので、想いを込めて飾ってみようと思います。（宮前奈々子）



柏餅と共にたけのこも盛りました。たけのこは、岩をも砕いてまっすぐ天に向かって伸びていく逞しい姿に、子どもたちの成長を託しています。



人形がなくても床の間がなくても、室礼はご自身で場を決めて調え、心をこめてお供えをすれば通じるものだと感じます。兜の折り紙など折りをこめて折り供えてみたり、柏餅やちまきなどの行事食をつくりお供えしてからいただいてみたりと、それぞれのご家庭や園でも試してみたいかがでしょうか。

一期一会庵

お花見のルーツ

桜の季節が到来して日本各地でお花見がはじまりました。

もともとこのお花見の起源は諸説ありますが奈良時代の貴族が始めた行事だといわれています。最初は中国より伝来した梅の花を觀賞するものからはじまったそうです。それが平安時代に入るところには、お花見は梅の花から桜の花に変わっていきま

した。

「日本後紀」には嵯峨天皇が812年（弘仁3年）に京都の庭園・神泉苑にて『花宴之節（かえんのせち）』を催したと記録があります。これが最古の記録の「桜の花見」です。また、日本最古の庭園書「作庭書」にも、「庭には花（桜）の木を植えるべし」と書かれているといえます。

遣唐使が廃止され天平文化が花咲くころに梅から桜へと意識が移り、その桜の花とともに新たに日本文化の独自性が磨かれていったといえます。もともと梅の花が日本人が古来から深く信仰してきた花だといわれますが、同時に桜もまた日本人の信仰する花でした。それは桜が元々、「山の神、田の神」であったからです。

稲の神様である「サ」が、春になると山から降りてきて木の上にある御座（ミ「クラ」）で花をつけました。その桜の花を観てはむかしの百姓たちは「サ」の神様が降りてきたので田植えをしようかとなったのです。サクラは今のソメイヨシノではなく、山に咲く山桜のことです。

梅も桜もどちらも先に花が咲き、可憐に清廉で美しく幻想的です。冬枯れした景色のなかで、花が咲く姿は予祝を味わう日本人にはぴったりの花です。また散り方も美しく、春の温かい日に一気に散っていきます。そして新緑の葉が出てきて生命力を魅せてくれます。

どの花からも私たちは元気をいただきますが、桜は特別にその元気が満ちているような気がします。厳しい季節を耐え、清らかに咲き、新しい季節の到来を知らせる。どんな時でも、清らかに生きようとする美徳を持った先人たちの後ろ姿が観えてきます。お花見が今でも日本人の大切な年中行事として定着しているのもよくわかります。忙しい現代だからこそ、この一年に一度しかない一期一会のお花見を味わって暮らしの豊かさを味わっていかたいですね。

子どもたちにお花見のルーツとその素晴らしさを実践を通して伝承していきたいと思えます。（野見山広明）

編集後記



いよいよ新年度スタート!

新年度が始まり、ご自身の異動、転勤や、ご家族の卒業、入学など、新生活が始まった方も多いかと存じます。この春は、弊社でも新たな仲間を迎えるのスタートとなり、私自身も改めて「何を大事にして働きたいのか」など、入社時に掲

げた初心を思い出す機会になりました。あの頃の気持ちを大切に、そして仲間の初心も大切にしてお客様や周りの方々、子どもたちに少しでも喜んで頂ける働きができたと思います。今年度もよろしくお願ひします。（宮前奈々子）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

